

2月号

# いっしん

平成29年(2017年)

第385号

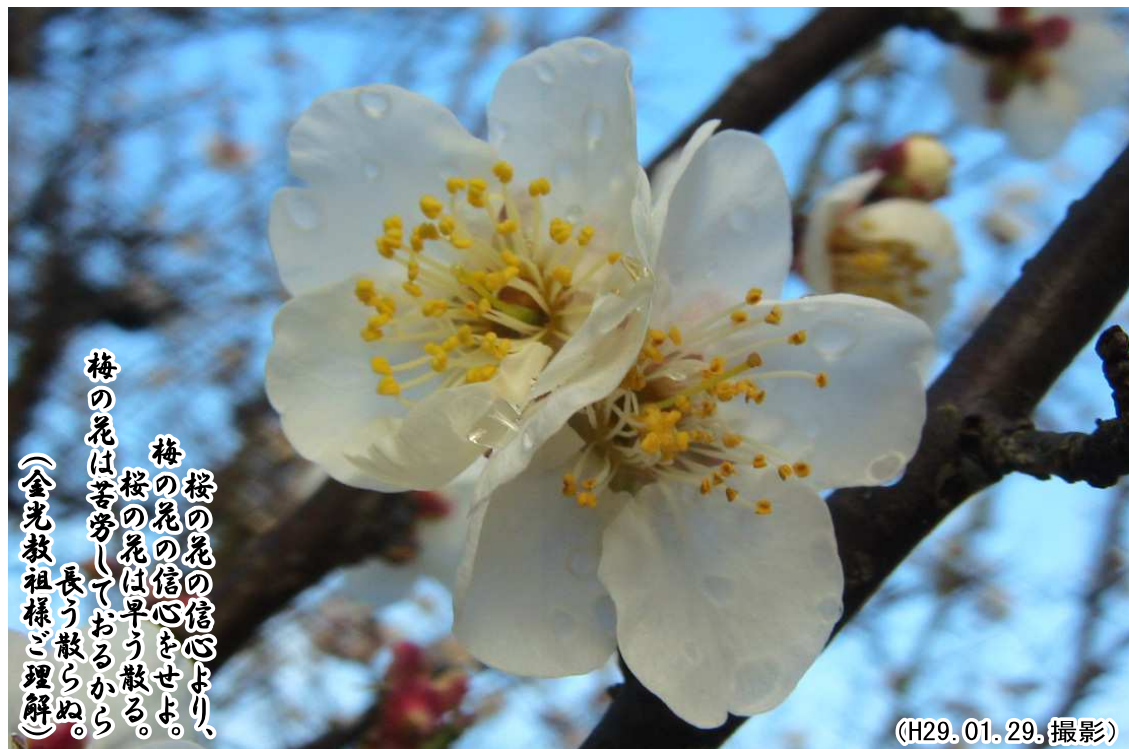
発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 / FAX 020-4665-5653

Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

信心とは  
いかなることを  
いうならむ  
はじめて忘れぬ  
心ならずや

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御款



梅の花は信心より、  
桜の花は信心をせよ。  
梅の花は早く散る。  
桜の花は早う散る。  
梅の花は苦勞しておるから  
長う散らぬ。  
(金光教祖様ご理解)

(H29.01.29, 撮影)

「報徳祭」は、九州地方の請願によつて、明治二十七年十二月、金光四神貫行君（こんこうしんつらゆきのきみ）一年祭が御本部広前の霊祭として執行されたことに始まります。

その後、教祖様の奥様（一子大神大明嬢之神）、第一世管長様（金光山神大道立別之命）、歴代金光様をはじめ先覚先師のご霊神様方が、それぞれの時代社会にあつてお道に「身命を捧げてこられた、そのご精神をあらためて頂きなのおすお礼のご祭典として仕えられています。

現在、御本部では「布教功労者報徳祭」、九州開道の祖桂松平先生が開かれた小倉教会では「金光四神大祭」、甘木親教会では「報徳祭」と称されてお仕えになられてあります。

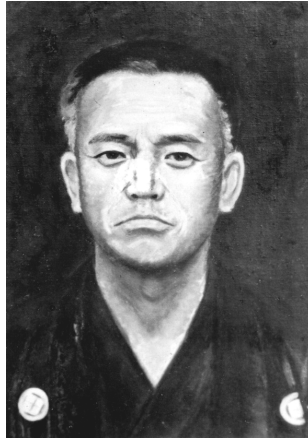
加治木教会でも、甘木親教会に習い「報徳祭」と称して毎年二月にお仕えさせていただいています。

そして、親神様、歴代金光様、歴代甘木親教会親先生、歴代加治木教会長、先覚先生の先生方にお喜びいただけるよう、あらためて信心の向上を願い、信心の原点に立ち返り、「神人の道」を現わす御神願成就お役に立たせていただくべく真心を込めて「報徳祭」をお仕えさせていただきます。

# 報徳祭

## の元にある「精神

今回、九州開道の祖桂松平先生が、光四神貫行君（二代金光様金）のご恩に「桂松平は、生き代わり死に代わり、必ずこの大恩に報い申さではおられません」と思われるようになられたできごとを少しだけ紹介させていただきます、九州の氏子の助かりを願われた四神様のお祈りとの桂松平先生「ご精神をふり返ってみます。



小倉教会 初代教会長  
桂松平 師

（※以下の参考資料『桂松平師伝』

桂家の屋号の「掛屋」は、代々毛利藩御用達の材木問屋で、徳川時代末期に藩の財政が傾き出すとともに傾いていきました。

教祖様直信の明田角太郎師は、明治十二年ころから三年ほどの間、仕事で柳井の町を訪れるたびに、さびれてきた「掛屋」に、断られても、断られても、金光教の信心を勧めに立ち寄られました。

当時二十四才で「掛屋」の当主であられた松平先生は「今まで名も聞いたことがない金光さま、私にはまだ狐とも狸とも得体の知れぬ神さま、金毘羅様を金光さまに乗り換える気にはなれません。まあ、信心は迷わぬことが肝心でございますなあ」と返事してありました。

しかし、「掛屋」の主人が代々カクの病（胃癌）で死ぬことと「掛屋」が没落してきたことを考えてみられると、明田角太郎師の「若い者が信心すれば四十までに家のメグリ身のメグリを取り払うてやる」との教祖様のみ教えが気にかかるようになられました。

そこで、金毘羅様の神様に「筒みくじ」という方法で「明田角太郎師の信する金光大神さまが真の神なら、十回が十回『丁』の数でお願いします

さい」と真剣に何いを立て筒から細い棒を取り出すと十回とも『丁』で、さらに三回試みても『丁』でありました。

それから、神を試したことを詫びられ、明田角太郎師に教えを乞われて信心を進めて行かれました。

しかし「掛屋」はいっそう傾くために、大谷のお広前参拝の願いもかなうことではありませんでした。

そのような明治十六年の初春、助けを求めて訪ねてくる人の中に、大病平癒のおかげを頂いた花屋の老婆が、旅費と金四十銭を差し出し大谷のお広前へのお礼の代参を頼み、大谷への初参拝ができませんでした。

大谷の金光さまのお宅を訪ねてみると、お広前に十数人の参拝者がありご理解があつており、その後ろから小さくなつていると「周防のお方、遠方をよくお参りでしたなあ」と声をかけられた。へ何も申し上げていないのに、自分のことをよく知っておられる。何ごとも見抜き見通しであるとはこのことかと思ひ、やがて

参拝の次第を申し上げ、花屋の老婆の代参が果たせたと思われていると、金光さまは静かに御神前に進まれ柏手を打たれるやいなや「氏子、水が毒、水が毒というが、水を毒と思うな。水は薬という気になれ。水を薬という気になれば腹の病はさせぬ」とご裁伝がありました。



立教聖場（教祖様広前）  
（樋口一郎氏 画・「金光教」HPより）

続いて「氏子、水あたりということと言ふなよ。水がなくては、一日も暮らせまい。大地は何とある。みな、水がもと。稲の一穂も五合の水をもって締め固めるといふではないか。水の恩を知れよ」と、厳かに仰

せられ、身を震わせながらひれ伏して聞いておられたそうです。

それからというもの、両親や家族が、カクの大病の時には食養生、特に水が腹に合うかどうかをいつも気にかけておられたことなどに、心得違いのあったこと、水を恵みと受け取るべきであったことに承服させられたそうです。

やがて、師は柳井の町で講（信徒が定期的に祈念を仕え信心の稽古に励む集まり）を作り甥の店の従業員として現在の山口県・福岡県・大分県方面へ海上交通で行商に回り、宿泊先で頼む者があれば祈念し熱心に信心を伝え、導き助けておられました。

しかし、商売はうまくいかず「掛屋」をたたみ、妻とは別れさせられてしまいました。

やがて、明治十七年、行商に回ってあった商品の卸先の店で家族が亡くなり商売が傾き支払いができません、師は売掛金を勝手に棒引きしてしまわれ、店に戻られると、甥でもある

主人から「馬鹿者めが！商売人が、先方から泣きを入れられるたびに棒を引いていたら、どこで商売が成り立つのか。馬鹿もほどほどにせよ。お前がいかにも善人ぶってそんなことをするから、いい年をして一人の親も養いきらず、貧乏して、一人前になれないのだ。貴様のようなやつは、もう、この店に用はない！」ととなりつけられ、日ごろ、師の信心話に快からず思っただ店員たちも、この機会にと師を打ちたたき、道の上に突き倒されてしまわれました。

師は言いよのない情けない気持ちと、自分の馬鹿さ加減にあきれつつも、割り切れない思いが募り、やるせなさが増し、自分のふがいなさを改めて認めざるを得ませんでした。

やがて、今一度ご霊地に参拝して、教祖様亡き後を継がれた金光四神さまに最後のお礼を申し上げ、老母の行く末のことをお願いして、帰り道に周防灘で割腹して身を投げようと思ひ定め、柳行李に手周りの物と短刀を忍ばせ、暗い心でご霊地にたど

り着き、広前にぬかすくと後から後から涙があふれ、心ゆくまで神様にお礼を申し、涙をこらえて静かにお結界に進み「金光さま、松平はこのたび、ちと遠方に旅立つことになりました」と申し上げ、にこやかに迎えてくださった金光四神さまは「ふう。今度は西国いきかな」と問い、つと立ち上がり奥へ入られました。

やがて、再びお結界につかれて「桂さん」と声をかけられ、ひとつの封筒を差し出され「桂さん、これで当分、眼の上の蠅を追いなされ。柳行李の物は、帰り道で周防灘に捨てなされよ」とのことでありました。

その封筒の中には、売掛金の総額である金子百三十円がそっくり入っていました。

師は「有難うございます。松平は、あなたさまに救われました。あなたさまはご神徳をもって、松平のこのたびの不始末をお知り下され、お助けくださいるのでございます。松平は生き返ったのでございます。昔、佐倉惣五郎は、生き代わり死に代わ

り、この恨みをはらうまでおくべきかと叫んでしましたとの事でございしますが、この松平は、生き代わり死に代わり、必ずこの大恩にお報い申さではおられません」と心の底から誓われました。

そうして、お金を店の主人に大急ぎで集金してきたように手渡したので、主人の心も和らいぎ、また、元のとおり店に努めることができるようになった。

このとき、金光四神さまから受けられたご恩が、骨髓にしみこみ、この後、行商に行く先々で神さまのみ教えを教え伝え、靈験は次々に現れ、各地に信者が増えて行きました。

やがて、行商の途中、大分県国東半島沖で乗っていた船が嵐に遭い、師は荒れ狂う海に投げ出され、手に触れた一枚の板切れに身を託して、金光さまを祈り続けていると「桂松平、心配するな。神が殺しはせぬ」と聞こえたかと思うと、えり首をつかまれて引き上げられ、救助船に助けられた。



江戸から明治期の海上交通や輸送に使われていた千石船

このことをご靈地にお礼参拝して申し上げると、金光四神様は「桂さん、結構でしたなあ。神さまのお心が分かりましたかなあ…」との仰せで、意味が分からなかったところ、つづいて「桂さん、今日から商売を止めて、道の教師となって、世の人々を助けなさい」との仰せでありました。

船での難破の少し前に、豊前のある宿でのご祈念中に「…神の用に使うため、商売をやめさせようと、何度も神が試したが、時が来なかった。商売しても金はたまらず、また何事も成就しないのは、みな神のはからいであつた。家のメグリ身のメグリがあつては、神の用は勤まらぬにように、メグリの取り払いをするため

に、自分の宝を神が突き崩したのである。これからは大繁盛のおかげを授けてやる」と自らの口を割って声がほとばしり出て、師は、これがご裁伝かと、あまりの不思議さを思うも「これからは大繁盛のおかげを授けてやる」とは、まだ「商売繁盛」のことと思っておられました。

しかし、金光四神様のお言葉で、やっと合点が行き、商売を止めて道の御用をにつくことが神様の願いであったことが分かれ、決心をされることになりました。

やがて、ご霊地において金光四神さまの元で信心修行を進められ、金光四神さまから「桂、大阪の難波に、近藤藤守という徳者がおる。卯の中から出てコケッココというまで聞いて来い」との仰せで、難波教会で百日の修行を終られ、



教祖様直信 難波教会初代 近藤藤守師

を磨かれ、師は九州布教へと向かわれることとなりました。

このようながら「報徳祭」をお仕えされるようになった、桂松平先生の金光四神さまに対する、受けられたご恩、報いずにはおれなくなられた貴重なご体験の一部であります。



平成二十八年四月二十日 桂松平 大人 百年祭が仕えられた 小倉教会 (北九州市小倉区)

# 成人式 おめでとうございます。

一月八日(日)、始良市の成人式が加音ホールで催されました。成人式前に、教会に参拝して、お礼申して出かけて行きました。一月十日の月例教会では、成人感謝祭が仕えられ、成人式を迎えた本人か家族が玉串を奉奠させていただきました。



教会前で記念撮影

少年少女会

かがみひら

# 鏡開き・七草

正月気分がまだ抜けきれない一月八日、加治木教会では少年少女会「鏡開き」が開かれました。

神様のお下がりのお鏡モチを焼いてのぜんざいをいただき、七草入りのタコ焼きを焼いて、皆でいただきました。

参加者の大半は未就学児ですが、お手伝いに当たって下さるお母さんお祖母さん方のご協力もあって、無事に調理も会食も片付けもできました。

最初の開会儀礼で「食物・天地のお恵みを粗末にしないこと」についてのお話がありました。

紙芝居では「おいしいとびらを」とんとんとんー「食べものに親しむーニアンパンマンとそっくりぱん」を観て、ソングゲーム「鬼のパンツ」で楽しみま



した。

そうして、神様のお下がりの鏡餅を焼いて、ぜんざいに入れました。

つづいて「七草」入りのたこ焼きをみんな楽しく焼きました。

タコよりもウィンナーやエビの方が好きな子もいましたね。

最後の開会儀礼では「お家で、食事の前と後には、食前訓・食後訓を唱えましょう」という、お約束をしました。

## お知らせ

### 訃報

渡辺ハルキさん（九十五才 始良町脇元）が、一月四日 お国替えされました。霊様のご安心とお道立てをお祈り申し上げます。

### 災害対策支援金箱

連合会下の各教会に設置され、加治木教会にも設置されています「社会活動委員会災害対策支援金箱」に、この一年間で、二〇三三二円貯まっていますので、一二三三二円を連合会社会活動委員会に、一〇〇〇〇円を「イキマス熊本」(熊本地震復興ボランティア)に入金させていただきます。

「イキマス熊本」(熊本地震復興ボランティア)は、昨年連合会主催「青年のひろば」で講師としてお話し下さいました。江田泉先生(大鶴教会)が関わってある自主団体で、その活動内容等をご紹介くださり、被災地の現状などについて説明して下さいましたので、支援金として送金させていただきます。

金光教南九州教区の  
五県の連合会で  
熊本地震復興支援活動

### 「移動図書館おあしす」

益城町の仮設住宅集会所で週一回、活動中！くわしくはフェイスブック「移動図書館おあしす」をご覧下さい。役立つ本、御用奉仕を待っています。（ほかお尋ねは教会まで）



(フェイスブックより転載)

### ご霊神様のおまじない

二月

- 桐野ケサノ 之霊神 (1日) 昭和9年
  - 桐野秋子 之霊神 (3日) 昭和7年
  - 中村照子 之霊神 (4日) 平成15年
  - 吉屋安光 之霊神 (8日) 平成1年
  - 川畑正徳 之霊神 (12日) 昭和23年
  - 矢野政美 之霊神 (12日) 平成11年
  - 小屋敷慶二 之霊神 (14日) 平成4年
  - 川畑助太郎 之霊神 (18日) 昭和23年
  - 最勝寺剛藏 之霊神 (18日) 昭和47年
  - 平島タキノ 之霊神 (18日) 昭和52年
  - 福山一間 之霊神 (20日) 平成16年
  - 川畑幸正 之霊神 (21日) 昭和21年
  - 野口ミヤノ 之霊神 (22日) 昭和60年
  - 永原初男 之霊神 (22日) 平成22年
  - 大山テル 之霊神 (22日) 平成27年
  - 平島房代 之霊神 (24日) 昭和6年
  - 中島武夫 之霊神 (24日) 昭和50年
  - 桐野ケイ 之霊神 (25日) 昭和2年
  - 前田京子 之霊神 (25日) 平成14年
  - 山下ヒサエ 之霊神 (28日) 平成2年
  - 宮内ミツル 之霊神 (28日) 平成13年
- 一先祖のご霊神様の、現世・幽冥かくりよでのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。
- 教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。

### 感 詠 (教会長)

原点に  
助けてもらいし  
恩忘れ  
真の己を  
見誤るかな

今朝もまた  
変わりになきさま  
歴代の  
常のみにつとめ  
遙かに仰ぐ

家族皆  
インフルエンザ  
かかりでぞ  
これまで長く  
まめなるをしる

毎日  
とうてい続け  
られぬわれ  
日々がさらぞと  
遙かに拝み

### あしあと 加治木教会行事記録

- 1 (祝) ●元日祭 正午
- 3 (火) 甘木親教会年頭参拝
- 8 (日) ★少年少女会
- 9 (月) 「鏡開き」 10時半
- 9 (月) 清掃御用 10時半
- 10 (火) ●月例祭(主祭) 10時半  
併せて 成人感謝祭
- 19 (木) 連合会執行部会 10時半  
(上荒田教会にて)
- 21 (土) 清掃御用 10時半
- 22 (日) ●月例祭・共励会 13時半
- 29 (日) 連合会定期総会 10時  
(宮之城教会にて)
- 31 (火) 清掃御用 10時半

二月十七日(金)

甘木親教会

出発 午前七時頃  
帰着 午後六時頃

報徳祭 参拝

二月十二日(日)

加治木教会

午前 十一時より  
(前日御用奉仕)

報徳祭 奉仕

併せて 矢野政美大人例年祭

〔ご教話〕 上荒田教会長 宮内政雄 先生  
多良木教会長 梅木博光 先生  
※ご祭典・教話、後直会。

報徳祭

二月六日(月)

多良木教会

報徳祭 午前十一時より

二月十九日(日)

上荒田教会

報徳祭 午前十一時より

二月二十六日(日)

西鹿兒島教会

報徳祭 正午より

三月五日(日)

宮之城教会

報徳祭 午前十一時より  
松井茂喜大人三年祭

教会行事

2月

- 1 (水) ●報徳月例祭 10時半
  - 4 (土) 甘木親教会初代立日御祈念 10時
  - 6 (月) 多良木教会報徳祭 11時
  - 10 (金) ●生神金光 大神様 月例祭 10時半
  - 11 (土) 御用奉仕
  - 12 (日) ●加治木教会報徳祭 11時
  - ” 矢野政美大人立日
  - 17 (金) ●甘木親教会 報徳祭 11時
  - 18 (土) 甘木親教会「同釜会」
  - 19 (日) 上荒田教会報徳祭 11時
  - 21 (火) 清掃御用 10時半
  - 22 (水) ●月例祭・共励会 13時半
  - 26 (日) 西鹿兒島教会報徳祭 12時
  - 28 (火) 清掃御用 10時半
- 《未定行事》  
青年会・若婦人会

3月

- 1 (水) ●報徳月例祭 10時半
  - 5 (日) 宮之城教会 松井茂喜大人三年祭
  - 9 (木) 斎掃御用 10時
  - 10 (金) ●月例祭 10時半
  - 13 (月) 矢野クラ刀自立日 御祈念 10時
  - 19 (日) 斎掃御用 10時
  - 20 (祝) ●春季霊祭 10時半
  - 22 (水) ●月例祭・共励会 13時半
  - 24 (金) 吉屋家霊祭
  - 31 (金) 斎掃御用 10時半
- 《未定行事》青年会・若婦人会・少年少女会

一月五日〜二月四日  
寒中一斉信行

ご祈念・研修 午前五時十五分・午前十時  
ご祈念のみ 午後四時・午後九時